

全組合員に問う！

こんな理事会三役をいつまでも、認めていて、いいのか？

組合員を欺き続ける理事会三役！

「臨時総会」は何処に行った！ 開催できない真の理由はこれ！

その、いきさつ 1

- 契約コンサルタントを切った訳は、その経緯は、 -

再生計画（素案）を反古にした訳は？

この計画の基本理念は、団地の再生には、「建て替え」ばかりでなく、修繕、改修、建て替えの三つの手法と、建設業界の現状、さらには富士見町団地の立地条件から、デベロッパーに頼る事は出来ないとし、自主施工方針での再生を提起されたもの。

且つ、これを「素案」とし、組合員の論議を経て「成案」にしようと言う、至極“まともな”提案でした。肝心な事は、これは、コンサルのみの起案ではなく、「合同会議」の「事前打ち合わせ会議」（理事会三役＋建替え委員会の正副委員長にコンサルを加えたもの）の合作というもの！

その意を受けて、棟別意見交換会も開かれたはず。（ただ、1回のみだったが・・・）

ところが、急に、これは、反古とされてしまう！

何故か？

5年前の第11回総会時に、否決された「業者丸投げ」の「一括建て替え」に固執しているから。且つ、彼等の本音は、修繕・改修を忌み嫌っているから。

昨年11月の理事会及び合同会議で、突然、「コンサルの評価表」なるものが提示されました。

この中で、コンサルの“資質”に問題有りとなされたのです。

その中身は、組合員に配布された冊子の再生計画（素案）より、以前の提案（08年度理事会・合同会議に「再生計画案」として配布）にまで言及しています。このことは、かなり前からコンサル切りを画策していたことを示すもの。さらに、その「評価表」作成者の氏・素性は明らかにしていない。

問われた理事長は、「私の知人」としか答えていない。

こんな、馬鹿な事が、理事会・合同会議の正式な会議で通用するものなのか？

コンサルの雇用は総会決議、尚且つ「修繕積立金」の取り崩しの上、多大な費用を掛けたもの。これは、組合員の財産。まさに、公費！それが、私的な「知人」の言い分に左右されていいものなのか？

このような事態、理事会は、その機能を果たしているのか？ これでは、理事長の私物化ではないのか！

付け加えるならば、契約コンサルタントから契約違反であるとの、訴訟にもなりかねない書面が届いているが、組合員には、まるで、その実態が隠されたまま！

その 2

再生計画（素案）に替わるもの - 新たな提案 - 「建替え委員会」副委員長の作文

前述のコンサル切りを受けて、なし崩し的に、新たな「提案」が出されました。理事会・合同会議では、「素案」と何処が違うのだ？との疑問が出されました。当然のこと。半ば「写し」の内容。これを、世の中では“パクリ”と言う！

中身が異なるのは、その計画の推進母体。「再生協議会」、その構成は、「建替え委員会」と「建築委員会」の正副委員長と理事会三役となっている！

尚、再生計画（素案）では、計画の推進母体は、「再生委員会」三役は、あくまでも、「建て替え」のため、「建て替え」という“冠”の付いた「建替え委員会」を残して置きたいのだ。しかも、この「建築委員会」たるや、この間、数年、設置されておらず、前回の第 15 回総会では、決議済みの「第 9 次長期修繕計画」の実施を求められると、「あくまで、それは計画」とし、計画の実施部隊の「建築委員会」の設置をサボってきた理事会三役が、である！
何という破廉恥！

さらに、重要なこと！

私たちの財産 - 修繕積立金の浪費！

今回の提案では、さらに、コンサル費用として、1000 万が計上されている。

1 昨年の総会以来（第 14 回総会）3549 万、そして今総会で提案される 1000 万は、修繕積立金の「取り崩し」である。

さらに、振り返ってみれば、第 11 回総会当時のコンサル社「市浦」への 4567 万！

総じて、1 億近い私たちの財産が、使われています。

これでは、まさに、これでは、「ドブ捨て」では、ないか？！

2010/4/24（組合員・居住者）